

博士課程教育リーディングプログラム 平成27年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	長崎大学	申請大学長名	片峰 茂
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	山下 俊一
整理番号	005	プログラムコーディネーター名	森田 公一
プログラム名	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

熱帯地域を中心とした開発途上国には世界人口の8割を超える人々が生活しており、今なおマラリア、デング熱、コレラ、トリパノゾーマ症などの熱帯特有の感染症により多数の患者が発生している。一方、先進国と称される温帯に位置する国々も国外からもたらされる新興感染症により、重大な健康被害、経済的損失、社会不安を蒙っている。西ナイル熱の新大陸への伝搬、重症呼吸器症候群（SARS）の出現、新型インフルエンザパンデミックなど、その事例は記憶に新たなところである。これら熱帯病・新興感染症への迅速かつ適切な対応をとり、国民ならびに世界の人々の健康を守るには国境を越えて地球全体の視点からの協動的で適切な対応が必要とされる。従って国、地域、地球規模のさまざまなレベルにおいて、熱帯病・新興感染症対策分野の教育・研究開発の推進、あるいは長期的な視野に立った疾病対策の立案、計画、実行が求められる。また、同時に新興感染症による国際感染症危機に際しては科学的根拠に基づいた迅速な対応を主導できる優れたリーダーシップを持った国際的人材の育成強化が急務である。

この様なグローバルリーダーに求められる資質には次の項目が必要である。

1. 病原体についての幅広い基礎知識を有すること
2. 感染症診断についての理論と実践を高いレベルで理解していること
3. 感染症治療と予防についての先進の知識を有すること
4. 感染症疫学の理論と実践の高いレベルで理解していること
5. 先進国のみならず開発途上国の保健衛生の現状に精通していること
6. 国際的な感染症対策の枠組みやシステムとその機能を理解していること

7. 国際感染症危機管理に関する知識を有していること
8. 対策事業を効果的に実施できるマネジメント能力を有していること
9. グローバル化する経済、地球気候変動、人口問題などの医学以外の関連知識を有すること
10. 国際的発信力と調整力を担保する英語によるコミュニケーション能力を有すること
11. 異文化を理解し対応する能力を有すること
12. 高い倫理感を有していること

以上のような認識のもと、本プログラムでは本学の大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を設置し、「熱帯に蔓延する感染症および国際的に脅威となる新興感染症について幅広い知識と技術及びグローバルな俯瞰力を備え、教育研究の推進と疾病制御の実践においてリーダーシップを発揮できる国際的人材を育成すること」を目的とする。

2. プログラムの進捗状況

- ①6月～3月 第1期生の後期海外研修を開始した。早期海外研修及び学位論文研究のための計画の作成後、リサーチワークを行った。海外での実践的な研修及び研究により、各学生が今後の研究・キャリアパスについて熟考する機会が得られた。
- ②4月～3月 コースワーク・ラボローテーションの運営を行った。熱帯病・新興感染症制御に必要な基礎知識および技術の習得を図った。
- ③7月, 2月 進級試験 (Qualifying Examination) を実施した。進級試験 (Qualifying Examination) の実施によりプログラムの質を保ち、また質の向上を図った。
- ④2月, 3月 外部評価委員, 連携教育研究機関協力者を招き, プログラム運営・評価に関する委員会を開催した。外部評価委員, 連携教育研究機関協力者と意見交換を行うことで, プログラムに関する共通認識を得ることができ, プログラムの改善につなげた。
- ⑤4月～6月 海外教育研究拠点等における研修充実化と連携促進のため教育研究プログラム等に関する打ち合わせを行った。海外拠点の活用により, 充実した海外研修を実施した。
- ⑥11月 長崎大学リーディング国際シンポジウム等を開催し, 本プログラムの周知を図った。開催によって本プログラムの周知が図られ, 「熱帯病・新興感染症」という課題を考える機会を設けた。
- ⑦4月～3月 eポートフォリオ (システム) 運用の定着を促し, 学生・教員・職員間の交流を図った。eポートフォリオの使用の定着により, これまで同様, 教員・メンター・学生間のコミュニケーションはもちろん, 他学年や他分野に属する学生間の交流を深めた。
- ⑧4月～3月 学生教育及び研究促進のため, 専門の教員を招へいた。外部講師よりインタラクティブな講義を受けることで, リーダーとしてのモチベーション向上とキャリアパス形成の促進を図った。
- ⑨印刷物等の作成により広報の強化を行い, プログラムへの理解を図った。